

中国人戦後補償裁判の記録

中国人戦争被害賠償請求事件弁護団 編著



正義をかなえてほしい!

日中戦争下、日本軍によって心身に癒やすことができない深い傷を負わされた中国人たちの思いを受け止め、司法の壁にたたかいを挑んだ日本の弁護士・市民の記録。

序 なぜ弁護士たちは立ち上がったのか

I 平頂山事件

II 南京虐殺・無差別爆撃・731部隊事件

III 遺棄毒ガス・砲弾被害事件

IV 中国人「慰安婦」訴訟

V 強制連行・強制労働事件

VI 裁判を支えた市民の活動

VII 壮大なオーラルヒストリー

高文研の本

日中戦争全史

笠原十九司 著

上巻 四六判上製・326頁

本体価格 2,300円

戦争には「前史」と「前夜」がある。日本の戦争指導者たちが踏み越えていった、数々の「point of no return」(戦争回避不能な段階)とは何か——日中戦争研究の第一人者による集大成！

下巻 四六判上製・373頁

本体価格 2,300円

日中全面戦争とは何だったのか。一〇〇万の日本軍が送り込まれた中国戦場で何が行われたのか。日本人の欠落した歴史認識を埋める、日中戦争とアジア太平洋戦争の全体像を描いた力作！



9784874987476



1920021025006

ISBN978-4-87498-747-6

C0021 ¥2500E

定価：本体 2,500円 + 税
高文研



序 なぜ弁護士たちは立ち上がったのか

1

「侵略戦争はなかった」——永野法相発言

K記者とのやりとり

再度の訪中準備

北京の青年法学徒の提言

民間対日賠償請求に対する中国の対応について

中国人戦争被害者たちとの出会いの衝撃

小野寺の決意

「中国人戦争被害法律家調査団」の戦略方針

先行事件の弁護士からの助言

全国弁護士構想

全国支援組織構想と「支える会」

裁判に不可欠な市民の支援

各事件弁護士による訴訟提起と全国展開

今も続く全面解決への努力

I 平頂山事件

被害者たちの証言

31

*方素栄——弟が銃剣で刺されるのを目撃

*楊宝山——母の血が口に入ってきた

*莫德勝——目を見開いたまま動かなくなった父

裁判の経過

43

*中国人戦争被害賠償請求事件弁護団の結成

*平頂山事件の幸存者・方素栄の不安と期待

*平頂山事件弁護団の結成

*緊張の初訪中——厳寒の撫順へ

*ないことづくめで始まった裁判支援

*原告が来日できない!?

*第一回頭弁論 莫德勝意見陳述

*莫の証言の反響

*各地の証言集会へ

*本人尋問を前に撫順・昆明へ

*楊宝山、方素栄の原告本人尋問と全国証言集会

*莫德勝の本人尋問

*「国家無答責」の壁に挑む

*一審判決は「国家無答責」で敗訴

遺棄毒ガス・砲弾訴訟

- * 遺棄砲弾被害者との出会い
- * 遺棄毒ガス弾被害者との出会い
- * 提訴準備——他の戦後補償裁判との違い
- * 被害の実態をいかに伝えるか
- * 戦後の不作為の立証
- * 二次訴訟判決とチチハル事件の発生
- * 一次訴訟で勝訴判決
- * 一審を覆した控訴審判決

134

チチハル事件訴訟

- * 衝撃的なチチハル事件
- * 新たな弁護団の結成
- * 現地調査、中国の弁護士たちとの協同作業、提訴
- * 深刻な被害の立証、医師たちとの連携
- * 明白な国の不作為責任
- * 取り上げられたカメラ
- * 一審判決と控訴審

144

敦化事件訴訟

- * 最高裁判決と同時に誕生した日中未来平和基金
- * 被害者たちと出会って

157

NPO法人「日中未来平和基金」の誕生

- * 毒ガスの被害
- * 日中未来平和基金の活動

161

IV 中国人「慰安婦」訴訟

被害者・加害者たちの証言

- * 李秀梅——五カ月間監禁され強姦、母は自殺した
- * 侯巧蓮——今も夢の中に日本兵が現れる
- * 張粉香——PTSDに苦しむ母との日々
- * 劉面換——命が尽きるまでたたかう
- * 近藤一——中国戦線でくり返した残虐行為

166

「慰安婦」問題の衝撃と中国人被害者

184

- * 一九九一年、「慰安婦」のカムアウト
- * 知られざる中国人女性の性暴力被害

中国人被害者の調査

186

- * 日本は中国で何をしたか——家永教科書裁判
- * 初めての聞き取り
- * 山西省の省都太原へ
- * 謝罪と賠償への強烈な要求
- * PTSDのフラッシュバック
- * 中国最南端・海南島の「慰安婦」
- * 「慰安婦」の現地調査
- * 弁護士団の結成

裁判の経過

198

- * 侯巧蓮の本人尋問と死
- * 忘れられない原告たち
- * 地裁の敗訴判決と中国での反応
- * 高裁での新たな立証

* 最高裁での和解への努力

* 海南島事件の訴訟の経緯

中国人「慰安婦」訴訟が日本社会に残した意義

206

- * 裁判後の中国
- * 日本人の歴史認識への影響
- * 歴史学における「慰安婦」制度の解明に与えた影響
- * 弾圧から「戦争遺留問題」へ——中国政府の変化
- * 裁判では認知されなかった「慰安婦」問題
- * 被害者の村での認識
- * 世界の動きに呼応して

V 強制連行・強制労働事件

被害者たちの証言

218

- * 宋君政——生のカボチャを食べたことがありますか？
- * 檀蔭春——二個のマントウのために働き続けるしかなかった
- * 安登山——中国人は袋の中の大豆以下なのか
- * 蒼欣書——仲間の遺体を山で燃やしました

- * 李樹明——「バカヤロウ」という日本語を今でも覚えています
- * 劉宗根——「ヒャクナナー(一〇七)」と呼ばれていました
- * 李良傑——積み上げられた骨を見て、死にたくなりました
- * 劉清江——死んでもあの世で裁判を続けます
- * 劉連仁——一三年間、日本が負けたことを知りませんでした

中国での聞き取り調査

- * 聞き取り調査と言葉の壁
- * 中国の電圧
- * 被害者の村での調査
- * 北海道訴訟の初調査
- * 中国人記者とのやりとり
- * 酒席での出会い

裁判の経過

- * 象徴としての劉連仁訴訟へ
- * 日本各地での提訴と支援の広がり
- * 北海道訴訟
- * 山形訴訟

- * 群馬訴訟
- * 長野訴訟
- * 福岡訴訟
- * 宮崎訴訟

輝かしい成果と発展

- * 劉連仁訴訟、新潟訴訟、福岡訴訟での勝利
- * 歴史的和解の成立

VI 裁判を支えた市民の活動

一教師の体験

- 裁判の盛り上がり
- 強制連行・強制労働事件
- 海南島「慰安婦」事件
- 平頂山事件
- 731部隊事件
- 南京虐殺事件
- 遺棄毒ガス事件
- 私たち日本国民の責務とは



VII 壮大なオーラルヒストリー

壮大なオーラルヒストリー

毒ガス兵器問題との遭遇

大久野島へ

「島に行かなあよかった」

もう一つの現在進行形

防衛研究所に新資料

「毒ガスで青春は終わった」

提訴は一筋の光

事実の重み

戦後補償のモデル

あとがき